

全から"FAX します。

平成13年2月4日

住友ゴム工業株式会社

知的財産部

住友教郎

いなご核村下ない。

三協国際特許事務所

神谷 惠理子 大量 担当

前略、貴社益々御清祥のこととお客び申し上げます。

さて、貴社整理番号K1010014(弊所整理番号28307)の明細書原 案を作成しました。下記事項に御留意の上、ご検討よろしくお願いします。

2

- 1. 特許請求の範囲について
- ① ポリカーボネートポリオールをポリオール成分として用いたというだけでは、 新規性がないため、分子量をクレーム1の必須構成要件としました。
- ② クレーム3としては、硬化剤の限定、プレポリマーのNCO量の限定、ボー ル硬度の限定などが考えられますが、いずれもクレームアップできるほど、実施 例での手当てがなされていません(クレームアップした場合に、比較例がない或 いは比較例となるものとの差異が明確には現われていません)。分子量以外にも 限定できる途を考えておく方が、特許取得時に安心です。限定する方がよいと思 UTIR-NCO S量 E 政度 う項目を挙げ、実施例または比較例の追加をお願いしまず。 (5~15%) (40~63) ポリカーボネートポリオールの分子量について 实施例 追加.

分子量がいかなる特性に影響するのかが、よくわかりませんでした。後述する ように実施例の結果からでは、判断できませんでした。このため、実施例の表 2 最近0分量节制、(初期联上) 例4.50年11。

貴社提案書には、分子量と硬度の関係が述べられていますが、硬度は<del>分子</del>量よ

りも契橋密度、ひいてはプレポリマーのNCO含量に関系するのではないです Lmマライが星が小エルと変はは「BUNCOS型のプレポリアでも ソントもブンドーをロイクスなりますから 不変な 変めてきます。

分子量が大きい場合、作業性、加工性が悪いと説明されていますが、ボール特 性には特に影響ないということですか? つまり、No. 5には、劣る点が現わ れないということですか?

3. 実施例について

だけれいき

作れず

1

①貴社提案書のプレボリマー・V~VIIの合成に用いたUH-CARBの高分子量部分、低分子量部分をカットしたものとは、どういうことですか? もう少し詳しく説明して下さい。 表稿(23) 分列しました。

②No. 6、7は、いずれもプレポリマーのNCO含量がNo. 1~5よりも小さくなっています。これは、ポリオールの種類によるためですか? 実験a 誤差です。

NCO含量が硬度、反発性に影響を及ぼすとしたら、ポリオール成分の違いを 見るためには、NCO含量を同程度にしたもの同士を比較する方がよいのではな いのですか? それとも、実施例レベルのNCO含有量の差異は、ポール特性に 影響を及ぼすほど、架構密度に対する影響はないと考えればよいのですか? そうです。 ③詳細な説明には、分子量が小さい場合、打球感が劣ると述べられています。評 価項目に打球感を追加する必要はないですか?

④No. 4、5は、分子量が本発明の範囲外であるため、悪くなっているものですが、何が悪くなっているのですか? 初期が光 .

耐水性、耐候性の値が低くなっていますが、これは初期反発が実施例1~3に比べて低いためにであり、低下の程度はそれ程変わらないと思いますが、いかがでしょうか? 本期が発が低い作用に ゴにフボーしゅ かご としての 評価が 思いとのうとです。 恒下の程度は「アルビ差があけません。

### 【書類名】 明細書

【発明の名称】 ウレタンカバーを有するゴルフボール

### 【特許請求の範囲】

【論求項1】 コアと、該コアを被覆するポリウレタンカバーを有するゴルフボールにおいて、

前記ポリウレタンカバーは、イソシアネート基末端ウレタンプレポリマーと、 硬化剤を硬化してなり、

酸イソンアネート基末端ウレタンプレポリマーを構成するポリオール成分は、 数平均分子量300~3000のポリカーボネートポリオールであるゴルフボール、

【請求項2】 前記ポリカーボネートポリオールは、ポリ(ヘキサメチレンカーボネート)又はポリ(1.4ーシクロヘキサメチレンカーボネート)である 請求項1に記載のゴルフボール。

#### 〔発明の詳細な説明〕

# 【発明の属する技術分野】

本発明は、雨天、猛勢、炎天下といった厳しい条件下で放置しても高い反発性 を維持できる熱硬化性ポリウレタンカバーで被覆してなるゴルフボールに関する ものである。

# 【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】

ゴルフボールのカバーには、耐久性に優れているという点から、主に、アイオノマー樹脂製カバーが用いられている。しかし、アイオノマー樹脂製カバーは、バラタゴム製カバーに比べて打撃時にゴルファーが受ける衝撃が大きく打球感が 劣る傾向にある。

アイオノマーカバーの打球感を向上するために、例えば、特許2709950 号では、オレフィンー不飽和カルボン酸共重合体のナトリウム塩又は亜鉛塩の硬 賀アイオノマーと、オレフィンー不飽和カルボン酸一不飽和カルボン酸エステル ターボリマーのナトリウム塩または亜鉛塩の飲質アイオノマーを混合して用いた 混合アイオノマーカバーが提案されている。 軟買アイオノマーをブレンドするこ とにより、打球感をソフトにすることができるが、その反面、反発性が低下し、 さらには打撃時の耐擦傷性 (チャンキング性) が低下するなど、アイオノマーカ バー本来の長所が損なわれる。

近年、パラタカバーに近い打球感を達成し、パラタよりも耐久性を有する安価なカバー材料として、ポリウレタンが注目されている。例えば、特許第2662909号には、反応の遅いポリアミン硬化剤でウレタンプレポリマーを硬化したポリウレタンカバーが開示されている。

上記特許第2662909号には、ウレタンプレポリマーとして、ポリエーテルボリオール、ポリエステルポリオール、ポリラクトンポリオール等のポリオールと、4、4′ージフェニルメタンジイソシアネート(MDI)、3、3′ージメチルー4、4′ーピフェニレンジイソシアネート(TODI)等のジイソシアネートを反応させてなるものが関示されている。

一般に、ポリウレタン樹脂の性能は、ポリウレタンを構成するソフトセグメントの影響が大きい。ポリウレタンのソフトセグメントに該当する成分は、ウレタンプレボリマーを構成するポリオールであるが、使用するポリオールとウレタンカバー乃至はゴルフボールとの関係は、上記特許には一切言及されていない。一方、新品状態では、性能にそれ程、差が認められなかったにも拘わらず、雨天や猛暑炎天下といった厳しい条件で放置されると、ゴルフボールの性能に差異が現われてくる。

本発明はこのような事情に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、所天や猛暑炎天下といった厳しい条件下でもボール特性を維持しつづけることができる熱硬化性ポリウレタンカバーを有するゴルフボールを提供することにある。

# 【諫題を解決するための手段】

本発明のゴルフポールは、コアと、該コアを被覆するポリウレタンカバーを有するゴルフポールにおいて、前記ポリウレタンカバーは、イソシアネート基末端ウレタンプレポリマーと、硬化剤を硬化してなり、該イソシアネート基末端ウレタンプレポリマーを構成するポリオール成分は、数平均分子量300~3000のポリカーポネートポリオールである。

前記ポリカーポネートポリオールは、ポリ(ヘキサメチレンカーポネート)又

はポリ (1. 4 - シクロヘキサメチレンカーボネート) であることが好ましい。 【発明の実施の形態】

本発明のゴルフボールは、特定のポリオール成分を用いて構成されるウレタンブレポリマーを用いたボリウレタンカバーで被覆したことに特徴を有している。

はじめに、本発明で用いられるポリウレタンカバーについて説明する。本発明 で用いられるポリウレタンカバーは、ボリカーボネートボリオールとイソシアネートを反応させては8イソシアネート基末端ウレタンブレボリマーと、硬化剤で 硬化してなるポリウレタンで構成されたものである。

カバーを構成するボリウレタンのソフトセグメントを構成するボリオール成分としてボリカーボネートを用いることにより、雨天、猛暑炎天下としった厳しい環境条件下でも特性変化が少なく耐久性に優れたゴルフボールを提供できる。すなわち、ウレタンプレボリマーを構成するボリオールは、分子鎖のリニアリティ、対称性が高いほど、結晶化しやすく、優れた反発性、耐久性を示す。ボリエーテルボリオールやボリエステルボリオールを用いた場合、結晶性が高く新品時に優れた反発性を示すことができるが、エステル結合、エーテル結合が熱により分解したり、加水分解してしまうため、雨天、猛暑炎天下といった厳しい環境条件下に放置されると、マクロボリオールが分解し、結晶性が低下し、ひいてはゴルフボールの物性が低下する。一方、ボリカーボネートボリオールの場合、カーボネート結合がエーテル結合やエステル結合に比して加水分解、熱分解されにくいということに基づき、新品時に示す優れた反発性を長期間にわたって維持し続けることができる。

ポリカーボネートボリオールとしては、数平均分子量が300以上、好ましくは900以上、より好ましくは1600以上のものが用いられる。数平均分子量の上限は3.000以下、好ましくは2900以下のものが用いられる。300未満では、最終的に得られるボリウレタンにおけるソフトセグメントが小さいために、新品時に示す反発性が不十分である。また、ソフトセグメントが小さいと、得られるボリウレタンの硬度が高くなりすぎて、打球感、コントロール性が悪くなる。一方、3000超では、ボリカーボネートボリオールの粘度が高く、ジイソシアネートとの混合、反応等の作業性が低下する。また、分子量の増大に伴っ

て融点が高くなるため、硬化剤と反応させる際に高温でカバー成形を行う必要があるが、高温での硬化反応は速くなりすぎて作業性の低下をもたらし、高温での成形加工はゴム製コアの劣化をもたらすことになる。

尚、本発明にいう数平均分子量は、ゲルバーミエーションクロマトグラフィー(GPC)で測定したボリスチレン換算の値である。

ポリカーボネートボリオールとしては、一般式H〇一(ROCO)。~ROHで表わされるジオールであればよいが、好ましくはRが下記(1)式で表わされるボリ(ハキサメチレンカーボネート)又はRが下記(2)式で表わされるボリ(1、4ーシクロヘキサンジジメチレンカーボネート)である。

#### [12]

ポリ (ヘキサメチレンカーボネート) やボリ (1. 4ーシクロヘキサンジメチレンカーポネート) は、特に耐熱性、耐加水分解性、耐候性に優れているからである。

イソシアネート基末端ウレタンブレボリマーの原料として用いられるポリオールとしては、上記ポリカーボネートポリオール以外のポリオールを、ポリオール成分の 45 %以下であれば用いてもよい。

用いることができる他のポリオールとしては、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、1、3ーブタンジオール、1、4ーブタンジオール、ネオベンチルグリコール、1、6ーへキサンジオール等の低分子量ジオール:グリセリン、トリメチロールプロパン、ヘキサントリオールなどの低分子最トリオール;ボリエーテルポリオール、ポリエステルボリオール、ラクトン系ポリエステルポリオールアクリルポリオール等ポリマーポリオールが挙げられる。

イソシアネート基末端ウレタンプレボリマーの原料として用いられるボリイソシアネート化合物は特に限定しないが、2,4ートリレンジイソシアネート、2,6ートリレンジイソシアネートと2,6ートリレンジイソシアネートの混合物(TDI)、4,4'ージフェニルメタンジイソシアネート(MDI)、1,5ーナフチレンジイソシアネート(NDI)、3,3'ーピトリレンー4、4'ージイソシアネート(TODI)、キシリレンジイソシアネー

東話例

MPI

τđ.

2

P

1.

ト (XDI)、バラフェニレンジイソシアネート (PPDI) 等の芳香族ジイソ シアネート;4,4'-ジシクロヘキシルメタンジイソシアネート(水業添加MD I)、ヘキサメチレンジイソシアネート(HDI)、イソホロンジイソシアネート (IPDI) 等の脂環式ジイソシアネート又は脂肪族ジイソシアネート等のうちの 1 種または2種以上の混合物が挙げられる。これらのうち、得られるポリウレタン カバーの機械的特性及びゴルフボールの反発性や耐候性・耐水性が良好であると 一色いう点から、TDI若しくは本業添加MDIが好ましく用いられる。

本発明に用いるイソシアネート未端ウレタンプレポリマーの遊離NCO含有率

は3~20質量%、好ましくは ち ~15 質量%である。遊離NCOは、硬化剤

との反応点となるから、最終的に得られるポリウレタンの架橋密度と関係がある。

従って、NCO含有率が3%未満では、最終的に得られるポリウレタンが軟らか

1250 118

TO 1 9-10 8

tom-13-13-14-14 王はとかすがかり

ナリイソ ラアネートしょくべ Z, OHL: NCOZON\_ TIN TARRESCE ZZ

782. 72 Julie 130

くなりすぎ、20%超では最終的に得られるポリウレタンが硬くなりずぎる。 杉上のようなワレタンプレポリマーを硬化させる硬化剤としては、特に限定せ ず、アルコール性水酸基を有するポリオール化合物、アミン系化合物、またはこ 92 D.

7777. 3A R 5,70

れらの混合物を用いることができる。 アミン系硬化剤としては、少なくとも2以上のアミノ基が芳香環に結合してい る芳香族ポリアミン化合物が好ましく用いられ、具体的には3,3~ ージクロロ 1351 ー4. 4´ージアミノジフェニルメタン、メチレンジアニリン、メチレンジアニ リンと塩化ナトリウムの蜡体、1,2-ビス(2-アミノフェニルチオ) エタン、

3, 5 - ジメチルチオー2, 4 - トルエンジアミン、3, 5 - ジメチルチオー2 6ートルエンジアミン、トリメチレングリコールージーp-アミノベンゾエート、

ポリテトラメチレンオキサイドージーp-アミノベンゾエート等が挙げられる。

ポリオール系硬化剤としては、エチレングリコール、ジエチレングリコール、ブ ロビレングリコール、1、4ープタンジオール、ペンタンジオール、ヘキサンジ

オール、ビスヒドロキシベンゼン、トリメチロールプロバン、ベンタエリスリト

ール等のポリオール化合物が挙げられる。

本発明のウレタンカバー用組成物は、上記硬化剤のアミノ基又は水酸基に対す る上記ウレタンプレポリマーのイソシアネート基の当量比率 (NCO/アミノ又 はOH) が $0.8\sim1.2$ となるように、硬化剤とウレタンプレポリマーを混合

フルゴツマー

とナッノスールの

52/8 U.F.

·0K

10 360 ab A C701 まいないかがり

5

TCHY 477-16908-3069 X375-1 L-77-44 (44)

# することが好ましい。

本発明で使用されるポリウレタンカバー用組成物には、上記ウレタンプレポリ マー、硬化剤の他、ウレタン反応で使用される従来より公知の触媒を含有しても よい。前記触媒としては、トリエチルアミン、N. Nージメチルシクロヘキシル アミンなどのモノアミン領: N, N, N', N'ーテトラメチルエチレンジアミン、 N. N. N', N", N"ーペンタメチルジエチレントリアミン等のポリアミン類: 1.8-ジアザビシクロ[5,4,0]-7-ウンデセン (DBU)、トリエチレンジア ミン等の環状ジアミン類:ジブチルチンジラウリレート、ジブチルチンジアセチ ートなどの錫系触媒などが挙げられる。

更に必要に応じて、前記ポリウレタンカバー用組成物には、硫酸バリウム等の 充填剤;二酸化チタン等の奢色剤;分散剤、老化防止剤、紫外線吸収剤、光安定 剤、蛍光材料、蛍光増白剤等の添加剤等をゴルフボールカバーによる所望の特性 が損なわれない範囲で含有してもよい。

ウレタンカバーの製造方法としては、従来公知の方法を利用できる。 ウレタン カバー用組成物を適常の攪拌能力を備えた配合機にて混合し、コアを保持した半 球状の金型内に注入、硬化させる。混合の方法は限定しないが、気泡を巻き込ま ないように、2液混合吐出機等で十分に提拌することが好ましい。

いなールのカバーとして 発性に最影響と 此3因子は顶盾T\*\* でないないと 强。正何时。 1x-1veca )

このようにして形成されるポリウレタン製力パーは、ポールの状態で、非ディ ンプル部分のショアD硬度 (ASTM D-2240) が、まつ~63であるこ とが好ましい。 生の未満では、軟らかすぎて耐傷つき性が劣り 反発性が低下する。 (反発性は、カーボネートポリオールの分子量、イソシアネート含量、硬化剤と けろんかつのはは、の混合比率により決まるのではないのですか?)。63種では、硬くなりすぎて、 ōco にも影響いず、打球感が硬くなるとともに、スピン性能が低下するからである

本発明のゴルフボールに用いられるコアは、特に制限はなく、従来よりマルチ ビースソリッドゴルフボールで用いられているソリッドコアや糸巻きコアを用い ることができる。

ソリッドコアとは、ブタジエンゴム等のジエン系ゴム、有機過酸化物、不飽和 カルボン酸又はその金属塩を含む従来より用いられているコア用ゴム組成物の加 硫成型体で、1層又は2層以上のマルチビースコアであってもよい。糸巻きコア

とは、ゴム球に糸巻きゴムで巻きつけたものである。

コア径は、直径36.8~41.8mmで、好ましくは37.8~41.4m mである。

本発明のソリッドゴルフボールは、以上のようなコアとカバーとの組合わせで構成される。カバーは、1層又は2層以上であってもよい。2層以上の場合には、少なくとも1層が本発明に係るポリウレタンカバーで形成され、さらに、ゴルフボールの美観および商品価値を高めるために、通常ペイント仕上げ、マーキングスタンプ等を施して市場に投入される。

#### (実施例)

[测定、評価方法]

#### ①硬度

ゴルフポール表面の非ディンプル部分に、ASTM-D2240に規定するスプリング式硬度計ショアD型を用いて測定した。

#### ②初期反発指数

各ゴルフボールに、198.4gのアルミニウム製円筒物を速度45m/s.ecで衝突させ、衝突前後の該円筒物及びゴルフボールの速度を測定し、それぞれの速度及び重量から、各ゴルフボールの反発係数を算出した。測定は、各ゴルフボールで5回行って、その平均を算出した。

製造直後のゴルフボールNo. 1の反発係数を100として、指数化した。反 発指数が大きいほど、反発性が高いことを示している。

#### ③耐熱性

. 製造したゴルフボールを、70℃のオーブン中で1週間放置した後、初期反発 指数の測定方法に準じて反発係数を測定し、製造直後のゴルフボールNo. 1の 初期反発係数を100として指数化した。

#### ④耐候件

製造したゴルフボールを、サンシャインウェザオメータで120時間照射した後、初期反発指数の測定方法に準じて反発係数を測定し、製造直後のゴルフボールNo.1の初期反発係数を100として指数化した。

#### ⑤耐水性

製造したゴルフボールを、60℃の水中に1週間放置した後、初期反発指数の 側定方法に準じて反発係数を測定し、製造直後のゴルフボールNo.1の初期反 発係数を100として指数化した。

【ゴルフボールの製造】 【下のリオーツのなんでも かりま】

# (1) ソリッドコアの製造

表2に示す配合組成を有するゴム組成物を、160℃で30分間加硫成形することにより、直径40.0mmの球状ソリッドコアを得た。

尚、表1中、ブタジエンゴムとしては、JSR株式会社製のハイシスポリプタジエンBR-01 (シス含有率96%)、アクリル酸亜鉛としては、日本蒸留社製のZNDA90Sを用い、亜鉛華としては東邦塞1号を用い、ジクミルバーオキサイドとしては日本油脂株式会社製を用いた。

#### 【表1】

# (2) プレポリマーの合成

表2に示す数平均分子量を有する下記一般式で表わされるポリカーポネートジオール(宇部興産製)又はポリテトラメチレンエーテルグリコール(BASFジャパン製)又はポリ(エチレンアジペート)グリコール(三岸化成工業製)と、4,4′ージフェニルメタンジイソシアネート(日本ポリウレタン工業製)とをNCO基とOH基の配合モル比(NCO/OH)4/1で配合し、窒素雰囲気下で、70℃で攪拌しながら3時間反応させて、表2に示すNCO含量及び分子量を有するイソシアネート末端ウレタンプレポリマーを合成した。

# [化2]

# (3) カバーの作成

上記で合成したイソシアネート未端ウレタンプレポリマーと1. 4-プタンジオール (BASFジャバン社製) とを、硬化剤の水酸基に対するウレタンプレポリマーのイソシアネート基のモル比率 (NCO基/OH基) が1. 05となるように混合し、さらにウレタンプレポリマーと硬化剤の給量100質量部に対して、酸化チタン 2 質量部を添加混合し、粘稠液体のカバー用組成物を調製した。

先に製造したコアを、ディンブル形成用凸部を備えた半球状金型に保持し、この金型内に、調製したカバー用組成物を注入し、次いでこれを反転して、カバー

用組成物を注入した別の半球状金型 (ディンブル形成用凸部を具備) と合わせて、80℃で15分間プレス成形し、硬化を行った。

硬化後、ゴルフボールを金型から取出し、表面をパリ取りした後、表面に白色 ベイントさらにはクリアペイントを施して、直径 24、 $8 \,\mathrm{mm}$ 、質量 45.  $2\sim45$ .  $7 \,\mathrm{g}$  のゴルフボールNo.  $1\sim7$  を得た。

ゴルフボールNo. 8については、硬化剤をエラスマー250Pに代えた以外はゴルフボールNo. 2と同様にして製造した。ここで、エラスマー250Pはイバウンシャン・イン・エティー・フェン価249、4mgKOH/g) である。

製造した直後のゴルフボールについて、硬度及び反発性を上記評価方法に従って評価し、さらに耐熱性、耐候性、耐水性試験を上記評価方法に従って行った。 結果をウレタンプレポリマーの組成とともに、表2に示す。

【表2】

ボリオール成分としてボリテトラメチレンエーテルグリコール (PTMG) を用いたゴルフボールNo. 6は、初期反発性が本発明実施例に該当するNo. 1 と同じ100であるにも拘わらず、耐熱試験、耐候試験、耐水性試験後の反発指数はいずれもNo. 1よりも劣り、反発耐久性が劣っていた。また、ボリオール成分 逆文としてポリ (エチレンアジベート) を用いたゴルフボールNo. 7は、特に耐水試験後の反発指数の低下が大きかった。

一方、ボリオール成分がポリカーボネートジオールであるNo. 1~5を比較 18130 dill した場合、分子量が小さくなるに従って 118016 が低下し、 量が300未満のNo、4では、 が低下しすぎる。また、数平均分子  $(N_0 \vee .)$ 量が大きくなるに従って なくしいなか となり、3000を超えると、 的是我一个大大工工作的对方是和期质发生的低下了多种的、数年的对象和300年有 No.4 1 3000 E起はNo.5は初期なのをい。 【発明の効果】 7的日神经现在 (7.2

本発明のゴルフボールは、ポリウレタンカバーの構成成分として、耐熱性、耐候性、耐水性に優れたポリカーボネートポリオールを用いているので、耐久性に優れ、高い反発性を維持しつづけることができる。

からなるないない かからなる みなり かからなる みなり

9

フレオやターも、オンリタールスグから ソフトセクケット

11 4 9199261065号替文/35:51 (水) 日3 月8 年1002

47647 76767 76747 17647 17647 17647 1477.

[1×1]

$$-(CH_2)_6 \qquad (1)$$

[{42]

| 配合量 (質量部)      | -       | 3.0     | r.  | 0.5         |  |
|----------------|---------|---------|-----|-------------|--|
| <br><b>分加を</b> | フタジエンゴム | アクリル酸亜鉛 | 亜鉛素 | ジクミルバーオキサイド |  |

1×1×1

, **7**4 .

~ •

|             |         |                                       |                       | _                                       |             |                                                   |
|-------------|---------|---------------------------------------|-----------------------|-----------------------------------------|-------------|---------------------------------------------------|
| ×           |         | PCS / R                               | 0 8 0                 | 1.641                                   | 0.04        | ,<br>,                                            |
| 0           |         | 0 2                                   | - 6                   | 100                                     | 80          | •                                                 |
| 0           | U       | 10/ 1/01<br>Dea Pas                   | 67                    |                                         | 75 27       |                                                   |
| 4           | %<br>0  | , , , , , , , , , , , , , , , , , , , | 987 19                | 101 101 100 100 100 100 100 100 100 100 | gz 862      | ,                                                 |
| 0           | [       | 7                                     |                       |                                         | ~           | 1977-250P                                         |
| O           | 0       | PCG                                   | 1987                  | 8,4                                     | 2836        | 1527-                                             |
| 0           | 7       | PEAG                                  | 2153                  | 8.2                                     | 3103        |                                                   |
| 0           | 9       | PTMG PEAG                             | 1962                  | 8.1                                     |             |                                                   |
| 0           | 5       | PCG                                   | _                     | 8.5                                     | 7           |                                                   |
| ◁           | 4       | Pos                                   |                       | 8.6<br>8.69                             |             |                                                   |
| o           | က       | PCC                                   |                       | 8.3<br>1069                             |             |                                                   |
| 0           | 2       |                                       | 300                   | 2896                                    | 17          |                                                   |
| 0           |         | PCG                                   | 000                   | 0.0<br>1622                             | 1.4.7 95% # |                                                   |
| ;<br>;      | ON A TO | ·益数<br>分子每                            | 日<br>中<br>C<br>C<br>N | 分子量                                     |             | 色便                                                |
| [表2]<br>打坏形 | E 411.4 | #- * ·                                | 7. 14. 17-            |                                         | 更行政         | 1, 11, 12, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, |

PTMG:BAS Fジャパン製のポリテトラメチレンエーテルグリコール PEAG: 三洋化成工業製のポリ(エテレンアジベート)グリコール %PC

2007年3月6日(火) 13:39/福祉3:35/文器 35/35616 13